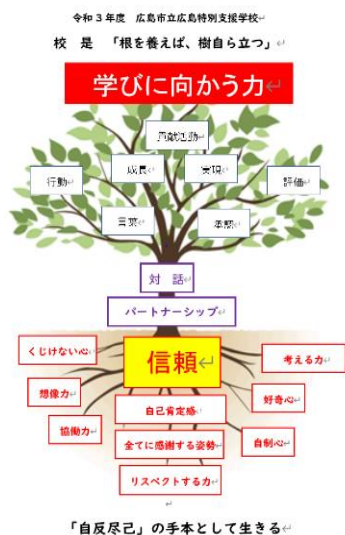


TS（トータル・サティスファクション）の実現を目指して②「自反尽己」

校長室担当より



「人のせいにする人、人のせいにしない人」

4月1日に、本校の先生方へ左のイメージ図（校是）をお伝えしました。HPにも掲載しているこの図の一番下の部分に記載してある「自反尽己」について補足させていただきます。実はこの言葉と初めて出会ったのは、私が購読している雑誌「致知」（到知出版社）の特集記事でした。その字が示すとおり、この言葉の意味は、「自らに反り（かえり）、己を尽くす」ことです。わかりやすく説明するなら、皆さんご存じの松下幸之助さん、作家の渡部昇一さん、ノーベル賞受賞者の山中伸弥さんの言葉がよさそうですので、ここでご紹介します。

- 「僕はな、物事がうまくいった時にはいつも皆のおかげだと考えた。うまくいかなかった時はすべて自分に原因があると思っとった。」（松下幸之助さん）
- 「失敗や不運を自分に引き寄せて考えることを続けた人間と、他のせいにして済ますことを繰り返してきた人間とでは、かなりの確率で運のよさが違ってくる。」（渡部昇一さん）
- 「うまくいった時はおかげさま。うまくいかなかった時は身から出た錆（さび）」を信条にしてきた。」（山中伸弥さん）

私は教員という仕事を実践する中で、うまくいかないことがある時に他人のせいにしてしまう方と、逆に絶対に人のせいにしない方の両方を何度となく目にしてきました。また、そのこと自体に気づいていない方もおられました。そういう私自身も「ちっちゃい自分」や「黒い自分」

がニュキニョキと顔を出してくることが何度もありました。確かに、人のせいにするとは自分は傷つかなくて済みますし、ストレスも、一時的ではありますが、一気に和らぎます。しかし、この「自反尽己」という言葉に接してから、今の私にはこう思えます。自らが投げたものは必ず自分に返ってくるのだから、それならできるだけ良い言葉を投げよう、相手に伝わらないなら伝わる方法をこちらが工夫しよう、今うまくいかない状況があれば、そのような状況になっていることに対して、本当に自分にできることはないか自ら問い直そうと。こう考えて、自分自身がその都度解決しない限り、同じ問題が別の形で、再び自分の人生に降りかかってくると思います。

どこかのお寺の住職様の説法のような内容になってしまいましたが、残念ながら私はその器ではありません。ですが、これが本校の目指す「トータル・サティスファクション」の実現に必要な考え方だと信じています。いい学校をつくりましょう、一緒に。(令和3年5月11日)

本校教職員として目指す方向性(確認) ※4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の3悪の撲滅